



- P2 補正予算ピックアップ
- P3 賛否一覧
- P4~13 一般質問で町政を問う
- P14 意見書を国へ提出
- P15 常任委員会活動
- P16 議会出前講座、視察来町
- P17 最近の議員活動、行政懇談会
- P18 要望書、編集後記

平成29年

12

月議会

第52号

だより 議会



■ 標題は北明小学校5年田中琉聖くんの作品です
Photos



■ 表紙は有明幼稚園 よしだ ねね ちゃん(5歳)の作品です

一般会計補正予算 **4,964万円を増額・可決**
一般会計予算総額は **145億4,199万円に**

12月定例議会は、8日から15日までの8日間で開催し、条例改正、人事、補正予算議案について審議を行い全ての議案を可決しました。一般質問は文教厚生常任委員会代表質問と9人の議員が行い、教育問題や障がい者福祉、道路環境などについて執行部と議論を交わしました。また、議員発議により国への意見書を採択しました。

11月16日に開催した臨時議会においては、道の駅造成工事に係る契約議案等が提案され議決しました。

ピックアップ



◆空き家バンク事業(100万円)

空き家バンク制度を創設することに伴い、利用促進のために登録者及び移住者に対する支援をするもの。

◆町立保育園公設民営費(3,910万円)

園児数の増加と職員の処遇改善に係る費用を措置するもの。

◆障害者就労福祉サービス利用促進事業(50万円)

指定寄附金を活用し、就労系福祉サービスを利用する障がい者の就労支援に係る費用を措置するもの。

◆肥育素牛生産拡大施設等整備事業(1,011万円)

佐賀牛の維持・発展に資するため、県産肥育素牛の生産拡大に必要な施設・機械等の整備に対し助成するもの。





議事を進行する片刈栄二郎議長

平成29年12月議会定例会には、
12月11日⇒24人
12月12日⇒8人
12月13日⇒1人
の傍聴者にお越しいただきました。
皆さんの傍聴をお待ちしています！



賛否一覽

賛成 …… ○ 反対 …… ● 欠席 …… 欠

議案番号	議案	結果	友田香将雄	重富邦夫	中村秀子	定松弘介	川崎一平	前田弘次郎	溝口誠	大串武次	吉岡英允	片刈彰	草場祥則	井崎好信	内野さよ子	西山清則	溝上良夫		
第5回臨時会 (11・16)	86 専決処分の承認(平成29年度一般会計補正予算(第3号))	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	87 平成29年度道の駅しろいし造成工事請負契約	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
12月定例会	88 税条例等の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	89 職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	90 町長等の給与、旅費等に関する条例等の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	91 議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	92 教育委員会委員の任命(堤 王宏 氏)	同意	無記名投票による採決																
	93 平成29年度一般会計補正予算(第4号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	94 平成29年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	95 平成29年度農業集落排水特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
96 平成29年度特定環境保全公共下水道特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
97 平成29年度水道事業会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

※議長は賛否の意思表示をすることはできません

議会ポスト ご意見紹介

- 地域でも女性のポジションは必要だと思ひます。責任、感心、活動を一人ひとりに意識をもってもらうことで、女性が輝いていけると思ひます。女性には目配り気配りができます。(60歳代女性)
- 行政の中にも女性が輝いていける課を設けてほしいと思ひます。議員の質問に対して前向きな思ひが伝わってきました。すばらしい、やさしいまちを作りたいです。(60歳代女性)
- 女性が活躍するため、地域づくりをすすめるためにも地域役員の女性の位置づけは必要です。自ら手を挙げる人はいません。行政がポストをつくってほしい。(60歳代女性)



●議案の説明を受ける



草場祥則 議員

文教厚生常任委員会代表質問

問 小中学校の統合を検討するに至った経緯は

答 少子化は確実に進行しており、いろいろな課題が生じてきた

議員 議会では、こ

れまで学校統合について幾度となく一般質問において取り上げて意見を述べてきたが、当局から統合に向けての前向きな発言はなかった。しかし、最近になり教育委員会においては、小中学校の在り方について

検討を始めるに至ったきっかけと経緯について問う。

教育長

本町では、小中学校の統合については、「複式学級を機に検討する」という方針であった。しかし、現在でも具体的な検討時期の予想は立たない。その間にも少子

化は確実に進行しており、主に次のような課題がある。

中学校では、

①町内のすべての子どもたちに部活動をはじめとして、感動、感激のある学びの機会を一律に保障してあげる必要があること。

②人生で最も

学生の時節には、いろいろな価値観を持つ多くの友人や教師と交わり、その中で自分を客観視して「夢」や「志」を育む必要があること。

小学校では、福富小学校を例外として、入学から卒業まで一度もクラス替

えがない現状は、「社会性」を育む上で大きな課題である。「社会性」については、群れ遊び

の中で、あるいは地域の共同体の中で自然に育まれていたものが難しくなっている。子どもたちには、多くの友達や先生と関わり、



●おいしい学校給食

たくましく育ってもらいたい。

また、校舎の老朽化が進む中で適正な教育環境を維持していくための財政上の課題もある。

このような状況から、

今後の小中学校の在り方について責任を持って考えていく時期であり、8月の定例教育委員会において、検討していくことを確認した。

問 検討から統合まで、どのくらいの期間を考えているのか

答 今年度に検討を始めたところであり、期間を申し上げるまでに至っていない

議員

我々も自覚と責任をもって学校統合を後押ししたいと考える。町と議会が協力しあつて、よりよい学校統合の実現のため努力する。検討から統合まで、どのくらいの期間を考えているのか。

教育長

今年度に検討を始めたところであり、その期間を申し上げる状況ではない。

今後、どのような学校の在り方がふさわしいか町民の皆さんがしっかりと関心をもつて考えていただけるような進め方を関係部局と連携を図りながら考えていきたい。統合は、まちづくりの一環でもあり教育行政の責任として、保護者や地域の皆さんのご理解のうえで統合すべきと考える。



西山清則 議員

問 地域の活性化は人が集まり交流することによって生まれると思うが

答 交流人口を増やす施策は、観光推進協議会で検討している

議員 うたがき

ッジ、うたがき研修センターに宿泊ができることになれば、子供達のキャンプ、スポーツ団体等の合宿や学生たちのキャンプも誘致できると思うが。

産業創生課長

今年3月に県から簡易宿泊施設の許可を受けた。PRについては、町H

議員

Pを活用して発信していく。スポーツ団体等の合宿にも利用していただきたいと思っている。

パークゴルフ場については、距離の長いコースや難度の高いコース、グリーンのみだけ少し高し力アップの位置を変えられる様に改良す

れば、各種大会等誘致できると思うが。

生涯学習課長

現時点では、距離の長いコースや難度の高いコースは考えていない。将来の課題として認識している。

議員

球場を建設するには莫大な費用が掛かる。よって、Pも含めた硬式野球ができる球場を建設するために、ふるさと納税への協力を呼び掛けることは出来ないか。

生涯学習課長

球場を建設するとした場合、ふるさと納税を財源の一つとして活用することも考えられる。十分な検討が必要であると思うが、現在のところ建設は考えていない。

議員

来年度から県立高校の再編により、白石高校と杵島商業が、

校舎制で統合することになっているが、将来、どちらの校舎を残していくか議論があることも予想されるが、本町として働きかけが必要ではないのか。

副町長

将来、校舎制の廃止が出てくれば、本町としては、本町にある校舎を使っただけをお願いしていく。

議員

空き家バンク事業により、本町への移住・定住の推進、地域の活性化を考えると、職員の物件を詳しく説明していくべきでは。

白石創生推進専門監

町内の宅地・建物取引業者の協力を頂き実施する。町の役割として、町の情報を丁寧に説明していきたいと思う。

議員

人を集めるには、スポーツや観光

に力を入れて取り組むことが重要で、子供達が夢を持てる、子供達が本町に残り活躍できる施策・交流人口を増やす施策を考えるべきでは。

町長

交流人口を増やす施策については、観光推進協議会で検討していただいている。また、町民の皆さんと

問 経済的な自立の支援、就労活動の支援策は何か考えているか

答 受託実績のある福祉就労事業所等と情報連携に努めていきたい

議員

白石町障害者福祉計画が策定されているが、障がい者の自立の支援、地域における生活支援、社会参加の推進、経済的な自立の支援、就労活動の支援策は何か考えているか。

長寿社会課長

障がい者の自立支援、就労

共に議論していきたい。



●にぎわった「しろいしべったんご祭り」



片刈 彰 議員

問 活気と魅力のある豊かなまちづくりに向けての方策は

答 本町の地域特性に合った企業誘致に努める

議員 人口減少に歯止めをかけるとともに、東京への人口の過度の集中を是正することとされ、本町において「白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し人口減少問題に取り組みることとされている。しかしながら、地方に働く場所がなければ、若い

人たちが都市部へ出ていくのは当然である。本町の特性に合った企業の誘致活動の現状について問う。
産業創生課長 本町は農業地帯であり、適合した産物に特化した企業立地を考えている。誘致活動については、佐賀県企業立地推進協議会にて活動

している。

議員 若い人たちの雇用の場を確保するための、企業誘致の将来展望について問う。

町長 第1次産業に適合する農林水産業の加工販売の企業誘致を考えている。土地については国土利用計画のこともあるが、本町は優良農地がほとんどであるため、農地の転用について農地法の制限がある。し

かしながら本年度、農村地域工業等促進法が緩和されている。また、町有地の活用についても考えている。今後、町独自にでも活動したいと考えている。



問 ふるさと納税の推進策は

答 いろいろなネットワークを使って推進したい

議員 今年度の「ふるさと寄附金」の推移について問う。
産業創生課長 自治体の返礼品競争が目立ち、また、総務省からの通知による制限の影響もあり昨年度

実績の85%程度である。インターネットのいろいろなサイトを通じて呼びかけをおこなっている。
議員 ふるさと寄附金の独立した組織の新設を考えるべき

ではないか。

町長 ふるさと納税の寄附金は、今まで通り産業創生課でがんばってもいい。

議員 ふるさと納税の寄附者を「道の駅」のオープンのときに招待ができないのか。返礼品の町内物産を

通して本町を応援していただけ有難いお客様でもある。
町長 非常に良い提案をいただいたので、オープンまでには時間があるので考えてみたい。



●首都圏スーパーでのトップセールス



中村秀子 議員

問 子育て支援と高校生までの医療費の軽減について

答 子育て支援をPRし、町民の意見や関係機関との協議を十分に行い検討したい

議員 現在の子育て支援策とその施策のPRはどのようにしているのか。

保健福祉課長 現在、

地域子ども子育て支援事業を11、その他の支援事業も11事業を実施している。これらは町のHP、広報誌、ケーブルTV、回覧板で周知に努め、必要に

応じて個別通知を行っている。今後はさらに関係機関と連携し町内外にもPRしていく。

議員 子育ては15

歳まででなくそれ以降も続き更に負担は増大する。高校生まで医療費の軽減はできないか。

町長 平成27年に

策定した子ども子育て支援計画は当時、新聞の一面を飾り施策が高く評価された。高校生までの医療費の負担軽減は他市町で実施されているところもある、財政状況との折り合いが必要であるが町民の意見や関係機関との協議を十分に行い検討していきたい。



●有明中学校吹奏楽部による演奏

問 いじめ・不登校対策について

答 いじめ撲滅宣言を行い、子どもに寄り添ってきめ細かな支援を行う

議員 いじめをどう

定義しているのか。また、現在の状況と防止対策は。

主任指導主事 一定

の人間関係で心身の苦痛を感じる事案については、いじめと判断する。日ごろから細かな観察を行い未然防止に努める。本年度

は11月末現在で小学校

校覚知9件、認知6件。中学校は覚知・認知共に6件である。

教育長 問題と感

じる感性を育てる。大人を言ひ課題であり町全体でいじめ撲滅宣言をしたいが、まずは子どもたちからいじめ撲滅宣言を行って

もらいそれを広げながら町全体で行う。

議員 不登校の現状と支援は。

主任指導主事 11月

現在小学校3名、中学校14名。不登校の要因は様々で、個々に応じた支援をしている。また、スクールカウンセ

問 オスプレイ配備に対する見解は

答 町民生活への影響を見極めて見解が、いまは何とも言えない

議員 防衛局の

1フレットを町内全戸に配布した意図は。

白石創生推進専門監

防衛局からの依頼であったが、様々な情報を遮断することなく考えてもらうきっかけとするために配布した。

議員 オスプレイ

の配備は、騒音はもとより有明海に面した豊かな本町への農林

ラー等の専門家と連携して、家庭訪問したり、電話連絡をしたりしながら課題を共有し、問題解決を図っている。また、担任は適応教室「あい」と連携をとり、気にかけていることを発信している。

水産業への被害が予測されるが町長の見解は。

町長 町民の安全

を念頭に置き、佐賀県、佐賀市、漁連の判断を見ながら、各種産業や町民生活に及ぼす影響を見極めたい。現段階では先走るべきではなく、判断すべき情報もないので何とも言えない。



内野さよ子 議員

問 平成30年度予算の基本方針は

答 総合計画の効率的な推進など11項目を基本とする

- 議員** 平成30年度の予算編成の基本方針と優先順位の考え方について問う。
- 企画財政課長** 基本方針として
- ①年間予算で見積もる
 - ②町長公約事項の反映
 - ③行財政改革への取り組み
 - ④第2次総合計画の効率的な推進
 - ⑤まち・ひと・しごと創生総合戦略の積極的な推進
 - ⑥事務事業の見直し
 - ⑦制度改革等への対応
 - ⑧歳入・歳出等の適切な算定
 - ⑨歳入の確保
 - ⑩町債残高の抑制
 - ⑪政策的経費等における事業実施期間

の設定

① 優先順位の考え方は扶助費、事務的経費の確保

② 継続実施している事項等

議員 中期財政計画の将来の見込みについてはどう考えているのか。

企画財政課長 過疎指定（過疎事業債）が平成32年度まで、合併特例債期限も平成31年度までと迫っている。今後の大きな課題である。

議員 行財政調査委員会の設置、また行財政プランの策定は

どうなっているのか。

白石創生推進専門監

11月に行財政調査委員会を設置した。次期行財政改革プランについても策定の基本方針などを検討していたので、今年度中に策定したい。

議員 平成28年度決算審査の結果をどのように活かしているのか。

企画財政課長 決算後、庁議で総括し、各課で事務事業の見直し、監査の指摘事項を受け、次年度の予算に反映している。

問 各地域づくりに女性の位置づけの在り方を考えて

答 モデル事業の中で探りたい

議員 地域づくり協議会の設置に向けてはモデル地区を選定しながら推進していくとのことだった。

11月に開催された「支え合いで暮らしやすい地域づくり座談会」は本町が目指している地域づくり協議会

の設置目的に近いので、行政の連携により発展させてほしいが。

白石創生推進専門監

座談会は、白石町の福祉協議会主催で行われた。どちらも地域の方が主体となっていたので、地域の負担にならないように連携していきたい。

地域づくり協議会のスケジュールは平成30年当初に検討委員会での設置、後半に募集方式によるモデル事業実施地区の選定。31年度には地区における将来に向けた課題に対する協議実施計画の作成をしていきたい。

議員 各女性団体

は活発に活動されているが、地域を網羅するような現状ではないので、各地域においての仕組み作りはできないか。

白石創生推進専門監

様々な活動されている女性の皆さんが地域づくり協議会に参加いただければ連携ができるものと考ええる。

議員 平成27年、岡山県総社市に地域包括支援システムの研修に行った。

当地では各地域に福祉委員という地域を元気にするサポーター制度があった。このような仕組みは大変参考になったが。

町長 モデル事業を探りながら、白石町にあったシステムづくりを行っていききたい。



●「さくらむすび」の主催者の皆さん



定松弘介 議員

問 消防団の活動について

答 消防団員の負担軽減を目指し、慎重に活動計画を準備したい

議員 消防団の活動内容と、今年の出動件数は。

総務課長 ボランティアである消防団活動は多岐にわたり、主なものとして火災時の消火活動、鎮火後の警戒、風水害時の危険個所の警戒・巡視、行方不明者の捜索、訓練、機具の点検、防火啓発等に従事いただいている。

今年の出動回数は、

町内での火災発生21件、行方不明者捜索3件、7月の大雨による河川巡視、災害防除、台風接近による警戒、並びに山間部での中継訓練など、白石町内において述べ84日の出動件数に及ぶ。ただし、本年の年末警戒の日数は含まれていない。

議員 消防団員の職業区分は。

総務課長 1169名の内、サービス業3

33名(29%)をはじめ、建設業150名(13%)、製造業184名(16%)、農業135名(12%)、公務員126名(11%)、他、卸小売業、飲食業、電気力ス供給業、運輸・通信業、漁・林業、など多種にわたっている。

議員 その勤務地の町内外の割合は。

総務課長 団員の593名(50.7%)が自営または町内勤務者であり、平日昼間においても活動可能な人員と認識している。

議員 近年、高齢者の行方不明増加が社会問題になっている。本町でも事案増加が懸念され、団員の活動増加につながるが、捜索における関係機関との連携と、マニュアルは。

総務課長 全国的に見ても行方不明者は、「疾病が原因による者」のうち、「認知症又はその疑いによる者」は、4年連続で増え過去

最多を更新している。本町においても増加の傾向であり、本年は3件の捜索出動となっている。本年の行方不明者は幸いに全員無事発見・保護されている。関係機関との連携

マニュアルは、行方不明者の家族から警察に捜索願が出され、警察もしくは家族から、町に依頼があれば消防団への協力依頼となり、警察署、消防署、消防団との協力体制が組まれる。情報共有(防災行政無線システム、ケーブルワンを含む)を行った後、捜索ルート、範囲等について協議し捜索を開始、終了ごとにお互いの新しい情報を共有する流れとなる。

また、高齢者の場合には、地元自治会や民生委員、老人会の方々の協力も重要となる。町内設置の防犯カメラの画像も有力な情報となり、ドローン

による空撮も検討していきたいと考える。

議員 SNS等を使っての画像提供は確実な情報となり、早期解決、そして生存率を高め、ひいては団員の拘束時間短縮につながるのでは。違法性はないのか。

総務課長 現在での画像提供は、家族からの写真提供により共有するまでで、SNS等による一斉配信は技術的には可能であるが個人情報保護法との絡みもあり、活動者以外の方への情報拡散も考え実現していない。各関係機関と協議しながら慎重に取り扱っていきたい。

議員 「安全安心な白石町づくりの基本は町民一人ひとりの防災意識からである。

以前は、各地域ぐるみで「口番」夜警」等の夜回りの慣習があった。その意識が地域の安全に大きな影響と連帯感にも寄与したと考える。より一層の各自治会による自主防災取り組みの啓発を。

総務課長 「自らの地域は自ら守る」自主防災の意識は非常に大切であり、今後も防災講座、啓発活動、リーダー発掘・育成、住民参加型防災訓練などにより自主防災の推進に務めていく。



●緊急消防援助隊合同訓練の様子



議員 溝口 誠

問 捨て猫の増加に対する対策は

答 飼い主の飼育マナーとモラルの意識向上を図るため、広報等で啓発したい

議員

犬猫の殺処分数と町内における飼育状況について問う。

生活環境課長 平成

28年度は犬15頭、猫21匹を捕獲し、そのうち犬2頭と猫18匹が殺処分となった。平成29年度10月現在において町内で飼育される犬は1479頭である。猫の飼育数は把握できない。

議員

近年は、猫を

飼う家が増えてきており、苦情も寄せられている。庭先や道路に

ペットの糞や尿による悪臭や、畑、苗床を荒らされている。この対策について問う。

生活環境課長

飼い主への飼育マナー、モラルの意識向上のため、不適切な飼育管理(野良猫への餌やり、希望しない繁殖の防止)について啓発するため、

回覧板、広報、ケーブルテレビ等で呼びかけながら改善をお願いする。

議員

野良猫の増加対策として最も有効な手段は、繁殖させないよう不妊・去勢手

術だと思われる。県内では6市2町でこの費用助成がなされているが。

生活環境課長

避妊去勢手術は、飼い主の責務として自主的に行うべきと考えている。

問 町道の交通安全と国道の車両通行振動防止対策の取り組みは

答 本年度から年次計画により改善工事に着手する

議員

町道、農道の整備計画の進捗状況は。

建設課長

平成17年度から平成35年度までの計画を策定し、平成29年度までに市町村合併道路支援整備が81%、過疎地域自立促進道路整備が85%、単独道路整備が51%の進捗状況である。

農村整備課長

農道

は町内363kmのうち、本年4月現在348kmの舗装整備が完了

し95.8%の進捗状況である。残りの15kmを今後舗装する計画である。

議員

町道横手福田線の全長5.1kmは

町内でも一番距離が長く、通行車両も多い町道であるが、中央線や外側線が消失しているため夜間の安全面が確保されていない。この対策は。

建設課長

今年の8月に交通安全整備事

業で一部を施工し、来年1月に500mを工事予定である。距離が長いので複数年の事業で整備する予定である。

議員

国道207号線廻里津地区550m区

間における車両通行時の振動対策は。

建設課長

県へ

対策工事の要望を行った。本年度に廻里江橋より南側100mを施工された。



●町道横手福田線

問 里親制度の推進のための取り組みは

答 制度の内容を広報等で広く周知したい

議員

佐賀県における里親制度は家庭

いくつか。

町長

この政策については個人登録の養育を進められているが、町内では受け入れ家庭が少ない。これからどのように増やしていききたい。

来年度以降も、廻里津交差点から南側へ計画的に施工される予定となっている。



友田香将雄 議員

問 移住・定住支援施策として「お試し移住」を行うべきでは

答 移住を考える方への支援の一つとして考えたい

議員 空き家バンク制度と並行して行う予定の移住・定住支援施策は。

白石創生推進専門監

「空き家バンク物件の流通促進奨励金」を創設、「空き家バンク物件の改修補助金」の創設。この二つを行う予定。

議員 町内経済の活性化における、観光

客の宿泊施設確保について、重要性をどのように考えているか。

白石創生推進専門監

近隣の温泉地や町内の民泊を活用するなど、他の市町と役割分担をすることを念頭に入れている。

議員 空き家バンクの物件を宿泊施設

や店舗など広く活用を見出すべきでは。

白石創生推進専門監

まずは住居用の物件を対象にしていく。今後は空き家バンクの運用をしながら修正を行っていききたい。

議員 移住検討者の不安を取り除く為、

「お試し移住」制度の導入が必要では。

白石創生推進専門監

移住・定住を推進していく中で、移住を考えられる方への支援の一つとして考えたい。

議員 大分県竹田市では農家の第三者

継承と移住を掛け合わせた施策「里親就農」を行っている。5年間で257名の移住者を受け入れるなど高い成果を出している。本町でも取り組めるのでは。

農業委員会事務局長

農業後継者確保の一助ともなるよう農業塾等の事業を活用していきたい。

問 小児科医師不足の改善について、国や県へ積極的な要望を

答 国や県、関係機関に強く要望しつつ

議員 医療費の増

大が全国的に問題になっていく。医療費の適正化に向けた取り組みは。

保険専門監 特定健

診の受診が重要と考える。健診による疾病

議員 小児科医師

院の小児科診療が縮小されている。理由と今後について。

健康づくり専門監

佐賀大学医学部の医師の派遣が難しいとの理由から今年の4月より縮小されている。現在のところ、以前のように戻る予定は無い。

議員 小児科医師

不足については全国的に深刻な問題である。小児医療体制の改善・充実を国や県に、積極的に要望を出していきたい。

町長 全国町村長会、

佐賀県町村会を通じて国や県、関係機関に強く要望をしよう。



●全国表彰を受けた白石町母子保健推進員



川崎一平 議員

問 将来のために町内の道路整備を急ぐべきでは

答 新設だけでなく道路の維持補修にも注目していきたい

議員 町内の農道・町道の整備は遅れていないか、また要望など対応状況について問う。

農村整備課長 農道については、軽微なものには連絡を受け次第職員にて補修をしている。

建設課長 町道についても、いろいろな要望があるが、要望書提出

の対応率44%で、要望書無しの対応済率が79%である。今後、緊急性・安全性を考慮して早期発見に努力する。

議員 予算の面など厳しい部分もあると思うが今後どのように考えるのか。

町長 安全安心な道路確保維持のため、軽微な穴等については即座に対応している。

財政面については今後、県や国も維持補修に注目し費用を確保するようシフトしていくのではないかと思う。

議員 路肩の崩壊や、法面の整備に関しての対応状況は。

建設課長 通学路、交通量の多い箇所を優先に考え、地域に偏りが無いよう対応していく。

議員 通学路に関して、安全性に関する調査やアンケート等行われているのか。また対応は。

学校教育課長 各学校や関係課また警察など連携して点検をしている。実際に危険箇所に変更を加えたりして対応している。



●夕暮れ時の通学路点検

問 道の駅の運営母体を早急に決めるべきでは
答 早急に決めていきたい

議員 道の駅オープンまであまり時間がないが、強力なリーダーや運営母体を早急に決めるべきでは。

産業創生課長 職員

も含め強力なリーダーシップを取っていき、また運営母体に関しても早急に向性を決めていきたい。

議員 これまで話し合われてきた道の駅に対するみんなの想いが消えないように、今後運営母体との意見のすり合わせをしっかりとやってもらいたい。

産業創生課長 協議

問 空き店舗バンクも考えてみては

答 関係機関と連携して検討したい

議員 空き家バンク事業が取り組まれたが、空き家だけでなく空き店舗バンク(仮称)なども併せて考えてみては。

白石創生推進専門監

空き家の利活用及び移住定住の促進を目的として取り組んでいるが、店舗のみとなると関連の部署や機関と連携して対応していきたい。



重富邦夫 議員

問 道路交通振動の対応は

答 振動規制法に照らし合わせ対応していく

議員 国道444

号沿線上で振動による物的被害の可能性が高い事案が発生している。県への働きかけが必要では。

町長 現在、振動調査、舗装の段差解消が実施されている。今後は、160mの舗装路盤からの改修工事の予定であり、その後の結果を注視しながら、協議をしていく。

議員 福富地域では大規模な工事が集中している。周辺地域への対応は。

建設課長 安全協議会、施業者との綿密な打合せ、ルートの調整、道路使用許可条件の制限を設けている。苦情があった場合には直ちに現場へ出向き対応する。



●大型車両の通行が多い町内の国道

問 児童生徒への教育環境・支援の在り方は

答 学校全体がチームとして対応していく

議員 学校区内に通級指導教室がない

場合、保護者の送迎が条件であるため断念されることもある。解

消する支援策はないのか。

主任指導主事 県へ増設を要望中である。

議員 交流学級、特

別支援学級、通級指導教室の先生の異動が同時にあると、その特別支援学級、通級指導教室に通う子供への影響が大きいと思うが、その対応は。

主任指導主事

新年度を迎える前に、前任者と徐々に引き継いでいく。密に連絡を取りながら、最大限の配慮をし教育委員会と協議をしながら進めていく。

議員

「いじめ」はできるだけ小さいうちに解消することが大事であると考えるが、新任の先生等の経験の少なさをどう補うのか。

主任指導主事

学校長も、ほぼ毎日授業参観している。校長・教頭の支えや、級外の先生とその都度、連絡・調整しアンテナを高く持ち、学校全体で支

えていく。

議員

異年齢との交流のため、学童保育を保育園へ委託できないか、将来の展望は。

保健福祉課長

民間委託は一つの手段。支援員の安定的な雇用、人員配置、事務の軽減等のメリットはあるが、経費の増額が見込まれ、今は公設公営で運営する。将来、何らかの事情で検討の可能性が出てくることも考えられる。異年齢との交流は、交流の施設があれば可能性はある、今の状態では難しい。



「道路事業の補助率等の高上げ措置継続に関する意見書」を議員全員で可決

当町においては、「地方創生を支える重要な道路」と位置付けて、有明海沿岸道路の整備が進められている。

また、児童や生徒の安全・安心な道路網の整備として通学路整備事業や、老朽化対策として道路改築・修繕事業に取り組んでいるところであり、今後も、計画的かつ着実な道路整備を進めるためには、予算の確保及び拡充は不可欠である。

現在、道路事業においては、「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」(以下「道路財特法」という)の規定により、地域高規格道路や交付金事業の補助率等を高上げされているが、この規定は平成29年度までの時限措置となっている。

このままでは、地域経済の持続的発展を支えるための道路整備を進めているこの時期における補助率等の低減は、地方創生の取り組みと自治体経営にも多大な影響が生じることとなる。

よって、国においては、道路財特法の規定による補助率等の高上げ措置について、平成30年度以降も現行制度を継続するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成29年12月13日

衆議院議長 大島 理森 様
参議院議長 伊達 忠一 様
内閣総理大臣 安倍 晋三 様
財務大臣 麻生 太郎 様
国土交通大臣 石井 啓一 様
内閣官房長官 菅 義偉 様



●提案者の井崎好信 産業建設常任委員長

議会広報特別委員会 議会広報充実のために学ぶ

10月30日、佐賀市で開催された町村議会議長会主催の町議会広報研修会に参加した。各町の議会だよりについて、講師からクリニックを受け、「伝える」ではなく「伝わる」ための工夫や見出しの重要性などについて1ページごと指導を受けた。また、町の情報紙としての役割を持っていることを認識して紙面づくりをすることや記事に住民参加のコーナーを設けることもアイデアであると伝えられた。広報特別委員会では、これからも多くの町民に手にとってもらえるような紙面づくりの研究を深めていくことを確認した。



●前田弘次郎委員長が他町の質問に答える

総務常任委員会

議会からの政策提言について意見交換

11月29日、滋賀県日野町議会を視察し、議会から町長へ「定住・移住の促進に関する提言」を提出された経緯などについて意見交換を行った。将来予想される急激な人口減少を克服するために、議会は町のエック機能の役割に加えて、町の政策に関して具体的な提言を行うことが本当の意味での二次元代表制であるとの考えから、特別委員会で調査研究を重ねた結果であると報告された。町が持っている強みと弱みを的確に把握され、総合計画と総合戦略に掲げられた施策に對し有効な提言がされたことがわかった。総務委員会で、本町が中長期的な視点で、まちづくりができるよう研究を深めていくことを確認した。



●日野町議会との意見交換

文教厚生常任委員会

神奈川県箱根町で小中学校統合の経緯を学ぶ

11月6日、神奈川県箱根町へ出向き、小中学校統合についての調査を行った。箱根町においても少子化の影響によりクラス替えができないなど学校運営に支障があったとのことであった。町長と教育長の強いリーダーシップにより、3年計画で3中学校を1つに、5小学校を3つに統合された経緯について説明を受けた。何よりも子どもたちの教育環境を充実することを考え、教職員の加配などを手厚くし、郷土愛を育む箱根教育を実践され大きな成果が上がっていることも報告された。文教厚生常任委員会では、今回学んだことを活かして、本町の学校教育の在り方について、研究を深めていくことを確認した。



●箱根町教育長から説明を受ける

産業建設常任委員会

「道の駅ましこ」を視察し
運営手法を学ぶ

11月6日、栃木県芳賀郡益子町の「道の駅ましこ」を視察した。設立計画から10年間携わっておられる町職員から説明を受けた。建設までのプロセスや運営組織の形態、地元野菜などによる加工品についての説明を受けた。道の駅店舗は、平日にもかかわらず多くの来客があり、地元木材を使った店舗づくりと雰囲気の良い、6次産品など種類の多さに驚くばかりであった。

本町も「道の駅」の成功に導くため、産業建設常任委員会としてもよりよい方策を提案するにあたり大変有意義な視察となった。



●道の駅ましこで商品の説明を受ける

議会出前講座

北明遠江地区に出向きました。町議会構成の報告、運転免許証の返納に伴うタクシー割引、いこカーの利用方法、国保財政、健康づくり、玉葱べと病、道の駅の進捗状況などの話と意見交換を行いました。

各地域の皆様も会合の際には、どうぞ議会出前講座を活用ください。

左から草場祥則、片淵 彰、
大串武次、川崎一平、中村秀子



11月17日
太原鶴寿会(会員約30人)

視察来町 (愛媛県三木町・鹿児島県さつま町)

11月7日、愛媛県三木町議会公共交通調査特別委員会から議員など11名が訪問され、本町のコミュニティタクシー制度について研修されました。



●愛媛県三木町

11月14日、鹿児島県さつま町議会文教経済常任委員会から議員など10名が訪問され、本町の農地集積の取り組みについて研修されました。



●鹿児島県さつま町

最近の主な議員活動 10月～12月



月	日	曜	活動内容
10	1	日	海童神社八朔祭
	4	水	町立指定管理保育園評価審査委員会 白石町教育研究会陸上競技大会
	5	木	きゅうり生産者との懇談
	6	金	学校訪問（有明東小学校）
	8	日	町民体育大会
	11	水	学校訪問（有明中学校） 杵東地区衛生処理組合議会臨時会
	14	土	県民体育大会（～15日）
	16	月	行財政調査委員会
	17	火	学校訪問
	18	水	政経セミナー 補助金援助団体監査
	19	木	全国過疎問題シンポジウム
	20	金	全国過疎問題シンポジウム分科会
	23	月	老人クラブ連合会との行政懇談会
	24	火	市町行政講演会
	25	水	差別の現実に学ぶ研修会 国道207号改良促進期成会要望
	28	土	有明中学校文化発表会 福富中学校文化発表会
	29	日	白石中学校文化発表会
	30	月	町村議会広報研修会
	31	火	西部広域環境組合定例議会
11	1	水	議員全員協議会 学校訪問（白石中学校）
	4	土	有明文化まつり（～5日）
	6	月	文教厚生委員会視察研修（～8日） 産業建設委員会視察研修（～8日）
	7	火	県町村議会議長会 愛媛県三木町議会から視察来町
	8	水	教育研究会委嘱研究発表（北明小学校）
	9	木	議会運営委員会
	10	金	佐賀県後期高齢者医療広域連合議会勉強会

月	日	曜	活動内容
11	10	金	指定管理保育園評価審査委員会
	11	土	白石高校創立100周年記念祝賀会 白石地域文化祭（～12日）
	13	月	杵藤地区広域市町村圏組合議会 観光推進協議会
	14	火	鹿児島県さつま町議会から視察来町
	15	水	直轄海岸保全施設整備事業福富地区完工式
	16	木	臨時議会
	17	金	佐賀県後期高齢者医療広域連合議会定例会 議会出前講座（遠江下公民館）
	19	日	しろいしぺったんこ祭 川崎旗争奪少年剣道大会
	20	月	地方自治法70周年記念式典（東京国際フォーラム） 地域問題懇談会（商工会）
	21	火	学校訪問（有明南小学校）
	22	水	町村議会議長全国大会（NHKホール） 同和問題市町講座
	24	金	国保運営委員会
	27	月	議会運営委員会
	28	火	総務委員会視察研修（～30日）
12	3	日	白石町教育の明日を考える集会
	5	火	政経セミナー
	8	金	12月定例議会開会
	11	月	一般質問
	12	火	一般質問
	13	水	一般質問、議案審議
	15	金	議案審議 議会閉会
	16	土	白石町社会福祉大会
	20	水	社会福祉協議会理事会
	21	木	JAからの寄贈米試食会（須古小学校） 有明沿岸道路南部地域総会
	22	金	西佐賀水道企業団全員協議会
	25	月	白石町文化振興財団理事会

老人クラブ連合会と行政懇談

10月23日、白石町議会と老人クラブ連合会との行政懇談会が開催されました。高齢者の健康づくり、運転免許証自主返納者への生活支援、農業の後継者対策、空き家対策などについて活発な意見交換が行われました。いただいた意見は、議会からの政策提言などに活かしていきたいと思っております。



要望書を受け取りました 4件

- 県道武雄～福富36号線の道路地盤沈下に関する要望
提出者 福田区長 林 広秋
- 白石川排水機場北側町道の整備要望
提出者 東郷区長 大串 秀治
- 六角地域東郷二戦堤内農地の排水事業に関する要望
提出者 地区耕作者代表 諸石 重吉
- 深浦川河川敷の一部コンクリート敷設に関する要望
提出者 深浦区長 光武 洋

全国過疎問題シンポジウム分科会

全国過疎問題シンポジウム分科会が白石町で開催され、町議会議員も参加しました。パネラーとして田島町長と前田弘次郎議員が、地域交通対策について意見発表しました。



議会戦隊 炊飯ジャー

第16話「臨時会」

作 Sachiemon



※臨時会とは

毎年4回招集される定例会のほかに、突発的の事情による事件の審議のために、議会を臨時招集されるもの。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。今年も平成30年、区切りの年をむかえます。昨年は、他県の災害と比べれば大過なく無事の一年ではなかったかと思えます。町議会も新編成から約1年、議員一同「安全・安心の白石町」、そして「飛

躍する白石町づくり」のために心血を注ぐ所存です。

「議会だより」は町民と議会の架け橋。これからも町民の方にご愛読いただけますよう編集委員一同がんばってまいります。

今年もよろしくお願ひ致します。

(こうすけ)



白石町議会だより/第52号

発行/白石町議会 佐賀県杵島郡白石町大字福田1247-1
TEL 0952-84-7126 FAX 0952-84-6611

編集/議会広報特別委員会
責任者/白石町議会議長 片淵栄二郎

編集委員/委員長 前田弘次郎
副委員長 友田香将雄
委員 川崎 一平
〃 定松 弘介
〃 中村 秀子
〃 重富 邦夫